

それで汽車の窓をあけて観音經をやつたり、矢立の筆を抜いて樂書きをしたり、便所の中へも樂書をした。

「狂人よ、お前は汽車に乗つたりしては不可ないよ、頭が機關車になるから」  
夜は次第に更けて行つた。

大きな停車場へ汽車が着いた。

それは廣島だつた。

その前に新吉は列車の中で車掌と格闘して、車掌のめがねを割つた。新吉のめがねは遠くにとど  
こでかで割れて無くなつてゐた。

洗面場で裸になつて體を拭いたりした。

便所の中で二時間も黙想した。

停車しても矢立を擦り硝子の窓の所にやつて、外から開かない様にしてゐた。

十燭の電燈が灯つてゐる、電池に觸れて死にはしないか、毒藥でも飲んすらうか。

振動は極端だ。